

(報告集会用リレイアウト版)

原告意見陳述書

2020年9月28日

原告

私は原告の[REDACTED]です。渋谷区恵比寿に1971年2月から住んでおります。戸建てから、ビルに建て替えています。妻に先立たれ子供夫婦と孫が同居しており、他の階はテナントさんに使っていただいております。

恵比寿駅と代官山駅の間に位置し、午後のひと時も好きなバッハを静かな環境の中で聴け、便利さも兼ね備えた大変気に入った地域です。バッハを聴いていると思考が活性化し、安らぎを与えられ、生きる力が湧き出ます。そんな自宅の真上を轟音と圧迫感を与え飛ぶのが今回のAルートです。ビルは5階建てです、周囲の空は遮るものはなく見渡せます。C滑走路に向けたルートも大きく空を切り裂きます。飛んだ日15時から思考停止になります。室内でじっとしてられません。夜の睡眠も浅くなりました、それは調べれば調べるほど不安が増すからです。落下物、墜落の不安です。和田航空局長は落下物に対して処分はしていないと本年4月6日衆議院決算行政監査委員会第4分科会で答弁しています。つまり2017年の4kgのパネル落下に対しても、KLMに対し処分無しです。驚きました。そのようなことでは落下物はなくならないと思うからです。

また、EU や米国は危険な航空会社や安全管理が出来ていない行政当局に対し乗り入れ禁止措置をとってきました。最近ではパキスタンでパイロットの40%が正規の免許を持ってない実態が明らかになりました。一方わが国は国家機関、都庁、企業の本社ビル、生活者上空を安全管理が出来てない飛行機や無免許のパイロットが操縦する飛行機が飛ぶのを航空局は規制しないのです。どうして平穏な生活が出来ますでしょうか、不安です。

2018年1月通常国会施政方針演説で安部首相は羽田新ルートについて「地元の理解を得てから実施する」とし、石井国土交通大臣も同じ発言を繰り返しました。

2018年末になりようやく着席での住民説明会が開かれるようになり、私も出席しました。

しかし、マスコミシャットアウト、説明は一方的で計画ありきで進められました。

私は次の様な質問をしました。

ロンドンヒースロー空港は滑走路2本ですが、離着陸回数年間47万回運用しています。

羽田空港は交差があるものの滑走路は4本あります。離着陸運用回数はヒースローより2万回も少ない年間45万回です。私はその理由は、空港の管制機器の差かと考え、そう質問しましたが、差はないとの答えでした。

ではヒースロー空港の運用回数が多いが研究、視察しましたか、と尋ねると、視察はしていない、する必要はない、航空管制の国際基準についても知る必要が無い、挙句には羽田は羽田のやり方でやる、でした。つまり効率良く運用している空港を参考にすれば現状海上ルートで増便でき都心低空飛行は必要なくなる可能性があるのに、結論ありきのこの態度には納得できませんでした。石井国土交通大臣は同年4月12日衆議院国土交通委員会で地元の理解とは関係地方議会も含まれると答弁しました。では、地元の地方議会はどのような態度でいたでしょうか。

品川区議会は、2019年3月、旅客機がおよそ300メートル上空を飛ぶことにより、落下物や騒音への不安があり、国の説明も不十分で新飛行ルートは容認できないとの決議を、全会一致で可決しました。

渋谷区議会でも、2019年3月落下物、や騒音、大気汚染が想定され、説明会では明確な返答がな

く理解が進んでいる状況にないと、計画の見直しを求める決議を、全会一致で可決しました。

港区議会でも、2019年10月、空港の管理方法の見直しや地方空港への分散など、別の選択肢を検討することを強く求める議決をこれも全会一致で可決しました。

また地域住民の都心低空飛行に反対する渋谷の会には町会長が会員としております。

町会長有志による区長、区議会議長宛て「都心低空飛行の中止を国に求める要望書」とした署名簿をつくり、個別訪問をしました。

20筆集まれば大成功と考えていました。なぜなら町会長は区政や国政で決まったことを、住民に浸透させるスタンスで仕事をされる、いわば行政側で役割を果たしておられる皆さんだからです。ところがびっくりする結果となりました。

渋谷区内の町会長さんは105名おられますが、署名は53筆の過半数に達し、区長への添え状は町会連合会役員4名と2名の町会長名で「羽田新ルート撤回に関する要望書」となり、本年8月区長と議会議長に手渡されました。

実際に運用が始まって、コロナ禍で大型機が少ない、乗客が少なく機体が軽い、それでも騒音はひどいものです。

私のところの最上階5階は理系の研究者の方に使っていただいておりますが、今年2月末突然転居されました。転居後私が同室を使うようになったのですが、騒音のひどさは他の階の比ではありません。転居の理由は騒音にあったであろうと推測しています。

高校3年生の孫娘は騒音で勉強に集中できないと、荒い言葉が混じるようになってしまいました。大学受験に備えての勉強中ですが、自宅から自習室勉強に場所を変えざるを得ませんでした。彼女の両親は、外では圧迫感がイヤ、室内では低周波騒音がつらいと、更に大好きな街が変わってしまったと嘆いています。

本年6月被害を実感した渋谷区議会は再び騒音がひどすぎて窓も開けられない、落下物が心配だと早急に再考を求める決議を全会一致で可決しました。

地方自治法99条の意見書として、昨年と同様、内閣総理大臣、国土交通大臣、衆参両議長宛て送付しています。

羽田空港新飛行ルートは、膨大なリスクに比し僅かなメリット、その増便メリットもリスクを背負わず運用方法があるのです。

裁判所の公正な判断を希望します。

ありがとうございました。